

(10) 四 国



四国地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

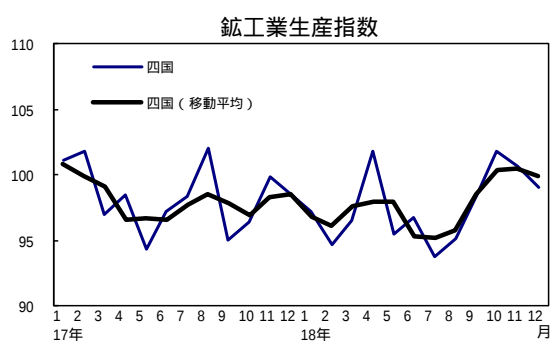
前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 11 月)	今回 (平成 31 年 2 月)	
住宅建設	大幅に減少	減少	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

10 - 12 月期には、化学・石油石炭製品は、医薬品等の生産増から増加した。電気機械は、計数半導体ウェハー等の生産減から減少した。食料品は、上昇した。はん用・生産用機械は、化学繊維機械及び建設用クレーン等の生産増から増加した。非鉄金属は、減少した。



(備考) 1. 2010 年 = 100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 四国の太線は中心 3 か月移動平均。
直近月は 2 か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10 月	11 月	12 月
化学・石油石炭	22.9	▲12.5	25.9	15.2	15.2	▲12.9
電気機械	15.8	5.4	▲3.3	▲2.8	▲8.2	3.2
食料品	10.5	0.2	0.5	4.4	▲2.6	▲5.1
はん用・生産用機械	10.0	▲1.4	4.8	0.6	▲3.5	▲13.1
非鉄金属	8.0	▲3.3	▲2.8	▲4.1	▲7.8	1.8
鉱工業	100.0	▲2.2	4.9	3.4	▲1.1	▲1.6

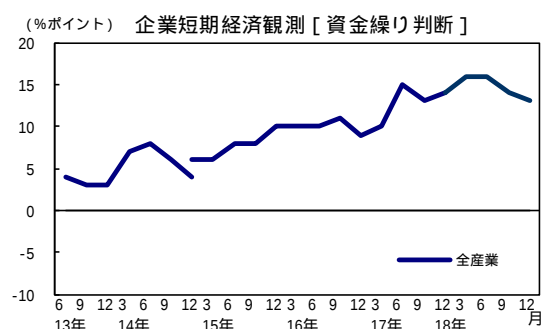
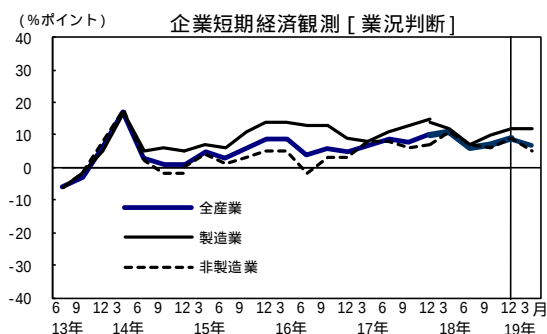
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(10) 四国

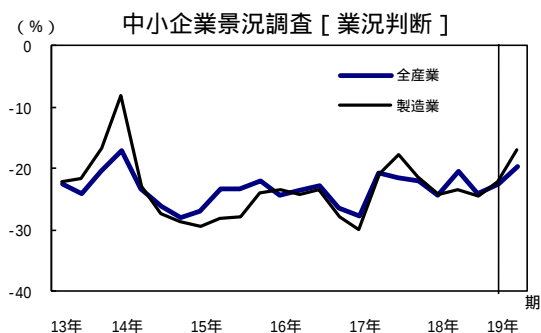
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

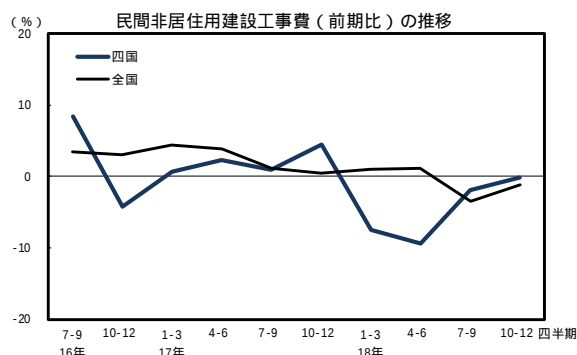


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2019年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「取引先の決算書や試算表、当月の売上状況から、余り変化を感じない(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばいとなっている。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	2017年度実績	2018年度計画
全産業	▲1.9	24.8 (1.3)
製造業	▲16.5	44.1 (▲5.0)
非製造業	19.0	5.1 (11.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

(備考)1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比2.5%増、11月は同1.3%減、12月は同0.1%増となった。

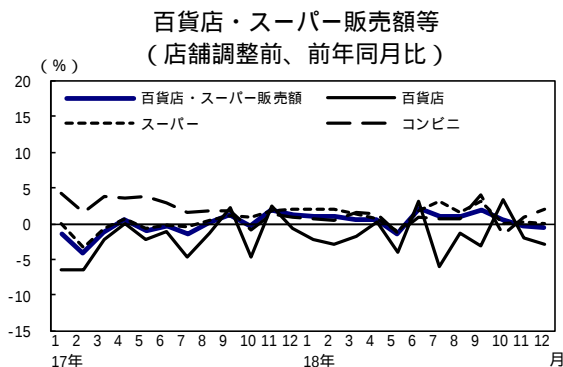
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、物産展などの催事が好調だったことによる「飲食料品」の堅調さを受けて、前年を上回った。11月は、暖かい日が多く冬物衣料の動きが鈍かったこと等を受けて、「衣料品」が振るわなかったこともあり、前年を下回った。12月は、お歳暮の動きが鈍かったこと等により「飲食料品」が不振だったことから、前年を下回った。

スーパーは、10 - 12月期は、総菜などの飲食料品が堅調に推移したことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「年始は福袋も含め、バーゲンセールの出足は好調だった。中盤から少しペースダウンしたが、来客者数は依然として好調を維持している (商店街)」などの回答がみられた。

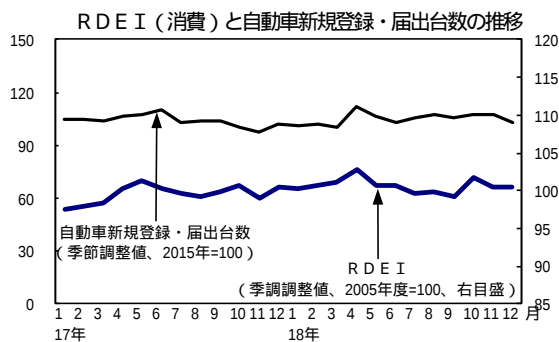


	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.3	2.5	▲1.3	0.1
百貨店・スーパー(*2)	▲0.1	0.7	▲0.2	▲0.6
百貨店(*2)	▲0.9	3.4	▲1.9	▲2.9
スーパー(*2)	0.1	0.0	0.3	0.1
コンビニ(*2)	0.5	▲1.6	0.9	2.1
乗用車(*3)	6.2	8.6	9.6	0.5
(季節調整値)(*3)	▲0.3	1.4	▲0.1	▲4.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

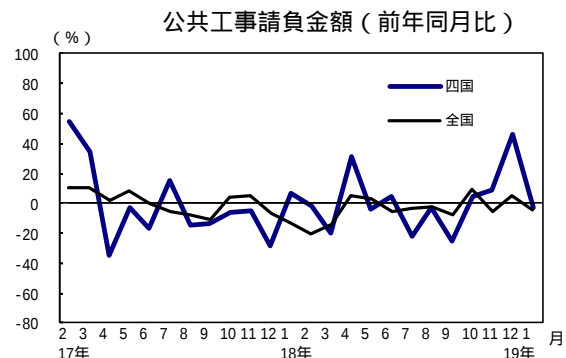
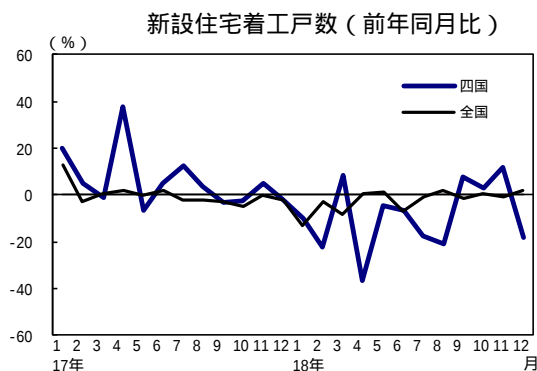
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

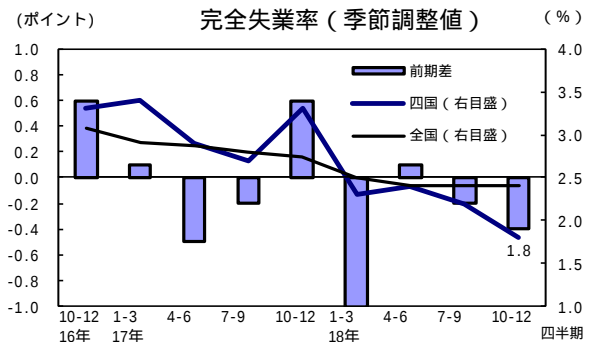
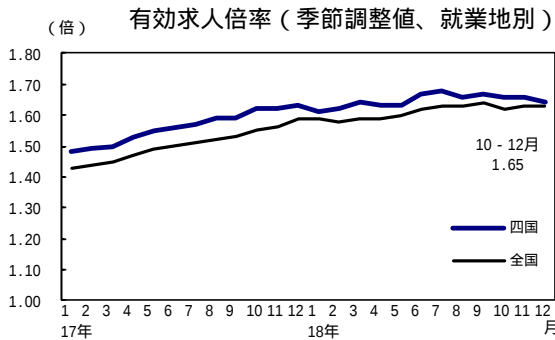


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

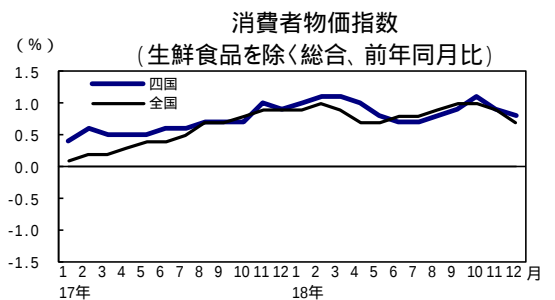
「長く続く求人難に打つ手がない状態が続いている。周辺企業でも様々な手で求人募集を行っているが、解決策がなく、景気は横ばいである (求人情報誌)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2018年 1 - 3月	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	2019年1月
倒産件数 (前年比)	42 40.0	41 ▲2.4	38 26.7	43 16.2	12 20.0
負債総額 (前年比)	120 79.6	56 ▲51.3	68 28.3	114 100.8	9 ▲79.4



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

